

“Building the TOMODACHI Generation” (略称 BTG)

Engaging U.S. and Japanese University Students in Social Problem-Solving

学生募集要項

1. 主旨

“Building the TOMODACHI Generation (以下略称 BTG)” 「トモダチ世代の構築」は、The Washington Center (以下略称 TWC)と日米研究インスティテュート(以下略称 USJI)が共催する、TOMODACHI Initiativeの正式プログラムとして採択された米国ワシントン D.C.で実施される2週間の短期集中留学プログラムです。

プログラムの目的は日米の大学生がワシントン D.C.でリーダーシップや異文化交流、社会問題に対する解決策など学び、様々なセクターのリーダーとのディスカッションや参加者同士のコミュニケーションを通じて、日本国内・国外問わず活躍できる次世代を担う TOMODACHI 世代のリーダーとしての能力を育むことにあります。

このプログラムは TOMODACHI Initiative、米国大使館、トヨタ自動車、三菱商事株式会社、日立製作所、そしてモルガン・スタンレー社の支援を受けて、USJI と TWC により運営されています。

このプログラムは、次のような特徴があります。

- 日米両国の市民社会の役割を理解すると同時に、市民社会が果たす社会問題の解決策についてのコンセプトを理解する
- 日米両国の学生がチームとして学習、実習を行いチームワークと協働する力を育み、長期間におよぶ東北地域復興支援や市民社会を強化するために産官学のセクターを超えたイニシアチブやプロジェクトを計画する
- 異文化理解、リーダーシップ、スピーチ、社会的責任、イノベーション、問題解決能力、批判的思考法、コミュニケーション、ネットワークのスキルなどのグローバルで活躍するため重要となるスキルを、プログラムを通じて学ぶチームビルディング、ディスカッション、ワークショップ、キャップストーンプロジェクトやその他の活動を通じて強化する

本プログラムは今回募集する16名の日本人学生と、TWCにより募集・選考される12名の米国人学生が共に学び、日米国際編成チームで東北地方における新たな市民社会モデルの策定や復興支援の新たな取り組みを企画・実行することにあります。ワシントン D.C.での2週間のプログラム最終日には、USJI Week の一環として日米企業関係者、政府関係者、研究者に対して公開プレゼンテーションを行います(予定)。

*** The Washington Center for Internships and Academic Seminars(TWC)とは**、1975年に設立された米国 NPO 団体で、学術的専門的達成、リーダーシップと市民参加を育成する自己変革の経験をインターンシッププログラムを通じて学生に提供しています。TWC のプログラムには毎年米国及び 20ヶ国以上から 1500人以上の学生が参加しています。

URL: <http://www.twc.edu/>

***日米研究インスティテュート(USJI)とは**、2009年4月、ワシントン D.C.に設立した米国 NPO 団体で、主な活動内容は、政策提言型の研究を行い、ワークショップやセミナーで情報発信をするとともに、幅広いネットワーク形成に努めています。連携大学として、九州大学、京都大学、慶應義塾大学、筑波大学

東京大学、同志社大学、立命館大学、早稲田大学の8大学が運営に当たっています。

URL: <http://www.us-jpri.org/index.html>

2. 概要・スケジュール

(1)場 所:米国ワシントン D.C.

(2)期 間:2015年2月14日(土)～3月2日(月)(予定)

*ワシントン D.C.のプログラムが修了して日本に帰国した翌日の3月2日に東京の米国大使館において報告会・レセプションが予定されています。

*プログラム詳細につきましてはBTGプログラム英文資料をご参照ください。

なお、日程につきましては若干の変更の可能性があります。

(3)経 費：BTGプログラムで負担する経費

- ・成田空港～ワシントン D.C.ダレス国際空港 往復国際航空賃*1
- ・宿泊費(米国内)
- ・食費(米国内)
- ・米国内移動交通費
- ・簡易海外旅行損害保険料*2

*1 参加者は他の参加者全員と同一のフライトで米国に渡航し、プログラム終了後には他の参加者と同一のフライトで日本に帰国しなければなりません。プログラム前後に米国内での旅行はできません。

*2 参加者はこの保険とは別に所属大学のリスクマネジメントポリシーに従った海外旅行保険(居住地出発日から居住地に戻る日までの期間を保障した保険)への加入が必須となります。

参加者が負担する経費

- ・日本国内の交通費・宿泊費
- ・ホテル宿泊において発生する宿泊費以外の個人的経費(電話、ミニバー、クリーニング等)
- ・超過荷物輸送料(航空機)
- ・パスポート取得費
- ・その他(個人の土産代等)

(4) 募集人数:16名(各大学から候補者2名・補欠1名を選考したのち、USJIで16名を選考する)

※現地で12名の米国人学生と合流

3. 応募資格(以下のすべてを満たしていること)

(1)正規生として大学に在籍する学部・大学院学生。

*全ての学科・専攻からの応募が可能。

(2)プログラム参加期間も大学に在学していること。ただし、プログラム参加期間中に留学中の学生、休学中の学生は対象としない。

(3)日本国籍を保有し、渡航時に有効なパスポートを所持していること。

(次ページへ続く)

4. 応募条件

- (1)東北復興支援との関係では、将来東北地方の復興に寄与するなど、プログラム終了後も東北地方とのつながりを持ち続ける意志のある学生が好ましい。
- (2)英語によるコミュニケーションに問題ない能力を有していること。TOEFL iBT 75～80(IELTS 6)相当が望ましい。
- (3)成績優秀者であること。GPA 換算 4.0 点満点で 3.0 以上が望ましい。
GPA に関する参考:日米委員会ウェブサイト <http://www.fulbright.jp/study/res/t1-college12.html#1>
- (4)プログラム参加において、授業履修や研究指導等に支障がないこと(授業や学事を理由とした参加期間途中の辞退・中止は認められないので注意すること。)
- (5)参加期間中の不慮の事故や疾病をカバーする海外旅行保険に必ず加入し、加入証明書を USJI 事務所に提出すること。その他、プログラム参加決定後には参加誓約書を提出すること。
- (6)申請者の人物を把握できる本学の教員に申込書の所見欄の記入を依頼し、入手できること。
- (7)履修において不利益とならないよう、東京大学での授業・試験日程、その他各自の予定等を申請前に十分確認し、参加が可能な場合のみ応募すること。(東京大学からプログラムに参加できる人数に上限があり、学内選考後に辞退すると他の学生の留学の機会を失うことにつながるため、原則として申請後に辞退することのないよう注意すること。)
- (8)プログラム参加時の所属部局の担当部署に相談し、申請前に派遣に関する学務上の留意点の説明を十分受け、申請書の所定の欄に署名を受け、納得した上で申請すること。

5. 出願方法

(1)提出書類

以下の応募書類一式(電子ファイル及び紙媒体)を提出すること。

<電子ファイルで提出するもの>

①BTG プログラム申込書・英文志望理由書(提出様式 1) の Word ファイル

※「各大学所見欄」には、指導教員など申請者の人物を把握できる本学の教員に、(1)今後の東北復興への寄与やつながり、(2) 英語能力に関する所見やプログラムへの適性等 を記入してもらうこと。また、「優先順位」欄は空欄とすること。

②英文履歴書(CV)(書式自由 A4 サイズ)

③学内用申請書の Excel ファイル(署名以外のデータ部分)

④成績評価係数計算表の Excel ファイル

<紙媒体で提出するもの> ※全てA4判に揃えて提出すること。

①～④をプリントアウトしたもの

※学内用申請書には必ず署名を入手すること

⑤大学入学後全学期の成績証明書(英文)の写し

※成績評価の基準(何段階評価か、等)が説明されている部分も含めて提出すること。

※国内外を問わず、他大学に在籍していた経験がある者はその大学の成績証明書も提出すること。

(次ページへ続く)

⑥英語能力を証明する書類

次のいずれかを提出すること。(受験後にウェブ上で確認できるスコアの写しでも可とする)

- A. TOEFL iBT または IELTS (アカデミック・モジュール) のスコアの写し
- B. A. のスコアを所持していない場合は、TOEIC、実用英語技能検定のスコアの写し
- C. その他の英語能力試験等の成績証明書を提出する場合は、その成績証明書の写し及び、その英語能力試験等に関する説明文書(様式任意。ただし A4 サイズ)。説明文書の内容には、試験概要や、上記の英語能力試験への成績換算表等を含めること。
- D. 特別な事情(英語圏の高等学校を卒業、等)により、英語能力試験等を受験していない場合は、自身の英語能力を説明する理由書(A4 判1ページ、様式任意)を提出することができる。

⑦推薦書(任意:特に東北地方復興活動との関連がある場合、書式自由 A4 サイズ)

注) 推薦書は任意です。特に東北震災ボランティアへの過去の活動、あるいはこれからの取組みについて、特記事項がある場合に、学生を推薦する人によって書かれるものとします。内容は学生の本プログラムへの適性と今後の東北復興への関わりについて言及し、学生を推薦することを明記したものとします。

(2)提出先:所属する部局の担当部署

【電子ファイル送付方法】

送付先:所属する部局の担当部署

メールタイトル:BTG プログラム申請(所属・氏名)

ファイル名:①(所属・氏名)BTG プログラム申込書

ファイル名:②(所属・氏名)BTG プログラム英文履歴書

ファイル名:③(所属・氏名)BTG プログラム学内用申請書

ファイル名:④(所属・氏名)BTG プログラム成績評価係数計算表

(3)提出締切日時: 6 月中旬～下旬頃

(所属部局により異なるので、各自所属部局の担当部署に確認すること。)

参考)各部局担当部署一覧:

<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/contacts/inquiry.html>

6. 選考方法

本学において学内選考を行い、候補者 2 名、補欠 1 名を選出します。学内選考は書面審査とし、原則として東京大学本部での面接審査は行いません。

7. 選考結果の通知

各大学からの推薦者を、日米研究インスティテュート(USJI)で最終選考を行います。最終選考結果は、7 月末頃、各大学窓口を通じて学生の所属部局へ連絡します。

8. 個人情報の取り扱い

提出書類に記載された情報は、全て各大学事務局を通じて、USJI および TWC に提供されますので、予めご了承願います。

9. 参加の際の注意事項

- (1) プログラムの趣旨を理解の上、十分な学習成果を挙げ、プログラムを修了することに努めること。
- (2) 参加学生は東京大学を代表する立場にあることを自覚し、滞在先の機関・国の法令、規則、規程、マナー等を遵守すること。

10. 参加後の報告等

- (1) 参加学生は、プログラム終了日から 2 週間以内(必着)に本部国際交流課が定める報告書(所定様式)、パスポートの写し(「本人氏名、写真等記載欄」と「日本の入国管理局による出入国印」のページ)を本部国際交流課へ提出すること。
- (2) 参加学生には、帰国後、報告会や説明会への参加のほか、東京大学の国際化に関する業務への協力(留学プログラムの広報や学生へのアドバイス等)を依頼する場合がある。依頼があった場合、やむを得ない事情のない限りできる限り協力すること。

11. 問い合わせ先

- (1) 申請の手続きに関すること、本学での学務関係の事項:
参加時に所属する部局の担当部署
(担当部署一覧:<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/contacts/inquiry.html>)
- (2) その他の事項:本部国際交流課 学生・研究者交流チーム (studyabroad@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)

以 上